

# 図書館情報学橋会会報 第12号(通号18号)

2011年9月発行 発行者 社団法人茗溪会支部図書館情報学橋会

## “図書館学校”創設90周年を記念して

図書館情報学橋会会長 森 茜

今年平成23(2011)年は、筑波大学図書館情報メディア研究科及び情報学群知識情報・図書館学類の始祖ともいべき「文部省図書館員教習所」が大正10(1921)年6月に上野の東京美術学校内に開設されて90年目にあたります。元祖“図書館学校”ともいべき図書館員教習所は、その後、大正14年に「文部省図書館講習所」と名称を変え、校舎も上野にあった帝国図書館の一部を使用することとなりました。そして昭和2年に帝国図書館の隣接地に新校舎ができ、以後、“上野の図書館学校”として、図書館短期大学が東京都世田谷区下馬に設置されるまで、長く親しまれることとなります。「図書館講習所」は戦争で20年3月に一時閉鎖されるまで24年間にわたり、文字通り、戦前の日本の図書館活動の牽引車でした。

戦後の“図書館学校”は、早くも昭和22年5月に「帝国図書館附属図書館職員養成所」として再設置され、昭和39年4月に「図書館短期大学」が設置されるまで「上野の養成所」の名前で広く知られ、戦後の公共図書館の普及を担った先駆的図書館員を数多く輩出しました。「図書館短期大学」は、“図書館学校”が初めて学校教育制度上の高等教育機関として設置されたものですが、それが名実ともに高等教育機関として4年制大学の「図書館情報大学」に生まれ変わるのは昭和54年のことです。なんと15年もかかりました。しかし、もっと驚くことは、図書館情

報大学に大学院博士課程が設置されたのが平成12年で、この間20年ですから、短大から4年制大になるのよりも、博士課程を持つ大学になるのに、大変な時間がかかったこととなります。

「図書館情報大学」は当初よりつくば市(旧筑波郡谷田部町)に設置されましたが、博士課程設置から2年後の平成14年に同じつくば市にある筑波大学と統合し、学部レベルは「筑波大学図書館情報専門学群」に、大学院レベルは「筑波大学大学院図書館情報メディア研究科」になりました。学部レベルの教育組織は、大学統合後あまり時を経ず、平成20年に筑波大学の情報系の組織と再統合し、現在の「情報学群知識情報・図書館学類」へと変遷しました。

今“図書館学校”は、21世紀になって急激に人間社会の殆ど全ての営みに深く広がったIT化の進展の中で、創設90年にして、知識や情報と記録メディアの関係をもう一度問い直す新たな使命を帯びることとなりました。“図書館学校”が、時代がどんなに変わっても、(戦後の一時期を除いて)一度も途切れることなく発展し続けた最大の要因が、人間にとって知識とその記録とのかかわりにあることに改めて思いを致す次第です。90周年、おめでとうございます。

※※※

## ◇素晴らしき先輩たちの心意気を繋いでいきたい 6◇

石山 洋さんに聞く、橋会を作った人たち・育てた人たち

聞き手: 森 茜(AM) & 森 智彦(TM) 取材日: 2011年8月6日

### 最初の同窓会「芸草会」

(AM) 石山さんは今84歳で、現在の橋会の監事をずっとされておられ、旧橋会でも役員をされておられましたね。“図書館学校”設立90周年を機会に、同窓会の歴史をぜひお聞かせください。

(石山) 私は、戦後すぐの昭和26年卒業で、文部省養成所2期生なのですが、その頃、文部省図書館員教習所や文部省図書館講習所のことはよく言い伝えられていたし、私自身、いくつかその頃の事を調べて文章に書いていますから、よく知っていますよ。

最初の同窓会は「芸草会」(うんそうかい)と言って、実は、大正10年6月に文部省図書館員教習所が開設されると、その年の10月には在學生たちによって発起され、11月には正式に発足し、在校生が卒業すると、そのまま同窓会になっていったものなんです。その頃は、「図書館学校」を作るということで、文部省の乗杉嘉壽さんという課長さんがとても熱心に働きかけて、国も帝国図書館も挙げて応援した直後だから、学生たちも意気が高かったんだね。「芸草会」は、3年後の大正13年には「芸草会会報」(第1号)という同窓会報を出している、単なる同窓会というよりは、研究的な集まりでもあり、ついには「芸草会叢書」まで発行している。「芸草会叢書」には、教習所の先生の講義録(和田萬吉「図書館史」、太田為三「和漢書目録法」など)を載せたり、卒業生や在學生が研究論文を発表したり(小宮山壽海「書誌学」、彌吉光長「目録法汎論」)などしてね。

芸草会の初代会長は小宮山壽海(教習所1期)だが、これは担がれたんだろうね。実際の活動の中心は1期生の秋岡梧郎、波多野賢一、山田正佐の3氏だと思うよ。小宮山壽海は「図書館職員養成所同窓会三十年記念誌」の中で、「私は、芸草なんて植物は、この会ができるまで知らなかった。」と言っているくらいだから。

(TM)『芸草』というのは、平安くらいから輸入されていた薬用植物で、毒草で、匂いがあるって、昔は書棚や文箱にいれて、虫よけに使っていたらしい。

(AM) 我が国最初の公開図書館と言われている平安期の石上宅嗣(いそのかみ やかつぐ)の公家文庫の名前も「芸亭(うんてい)」と言ったから、「芸草」の草の名は、むしろ、書物・文化のための草という由来かもしれないね。図書館の同窓会の名前としてはゆかしい名前だね。志の高さがうかがえるね。

分裂した同窓会 講習所学友会

### 分裂した同窓会 講習所学友会

(石山)「芸草会」という同窓会は、教習所が大正14年に「文部省図書館講習所」に変わった後も続いていたんだ。ところが、昭和6年に、2つに割れてしまった。

(AM) どうしてですか。



石山洋氏(取材時撮影)

(石山) 実は乗杉さんという人は、図書館学校の設立には熱心な人で、考え方も開明的ではあったんだが、人事とかについてはかなり自己都合的なところがあってね。教習所が、文部省附属だった時は、文部省課長である自分が教習所管理者(こういう名前の官職)となって、直接的に運営に関わっていたが、大正11年に教習所が帝国図書館附属になったら帝国図書館長が管理者になることになったため、12年に自分の帝国大学の後輩の松本喜一を帝国図書館に呼び、講習所管理者に任命してしまった。この松本喜一は、前職が茨城かどこかの師範学校の校長で、図書館のことを全く知らない人で、同窓会を師範学校の同窓会みたいに学校の意の通り動かしたいと思ったらしく、「芸草会」とは別に「図書館講習所学友会」というのを作ってしまった。これで、事実上、同窓会は二つに割れてしまった。昭和6年、つまり「講習所」10周年の式典があったのだが、そのころには「学友会雑誌」創刊号が刊行されている。

この辺のことは「図書館職員養成所同窓会三十年記念誌」に詳しいよ。

(AM) 寺田光孝さん(S46 図短別7期)は、「図書館情報大学同窓会橘会八十年記念誌」に「本学の発端としての図書館職員教習所・図書館講習所は、大正デモクラシーの中で生まれたが、大正時代は今日のバブル経済とその崩壊後と似通った空白の時代でもあり、無定見な中に自由の空気が渦巻き、流れていた。」と、指摘しているが、同窓会もまさにそんな雰囲気が彷彿としますね。

(AM) その後、どうなったのですか。

(石山) いくつかの文献によると、「芸草会」と「学友会」は、話し合いをしたらしいが、決裂したとの記録はあるが、その後どうなったかは、はっきりとはわからない。しかし、ゆっくりと統合されていったのではないかと思うよ。

### 図書館養成所の同窓会

(AM) 図書館講習所は、戦争末期に一時閉鎖されたと聞きましたが。

(石山) そう、昭和20年卒の第24期で切れた。(教習所と講習所の卒期は通算で呼ばれていた。)

しかし、戦後日本の教育については成人教育を中心にしてしようというGHQ(連合軍最高司令官総司令部)の強い方針があり、図書館は比較的早く復興した分野で、図書館講習所の復活は早い時期に実現した。これには、当時、帝国図書館長だった岡田温さんの尽力が大きい。岡田さんによれば、GHQからフェザーウエ

ァー（女性）がやってきて、「詰め込み教育はダメだ、社会教育を普及しなければいけない、そのためには図書館だ。」ということと言われ、岡田さんの提案した図書館講習所の復活が容易に実現したとのことだ。岡田さんは、戦前の講習所が、設置制度の根拠を持たない長期講習会形式だったことを遺憾に思っていたので、再設置する際には、ぜひ官制（制度として独立した機関）にすることを要望した。そして、昭和22年5月に、**帝国図書館附属図書館職員養成所**が、2年課程の官制教育機関として、専任教員2名の定員、事務の女性2名でスタートした。ところが、すぐに、国会図書館を作ろうというので、帝国図書館長の岡田さんはその準備室のある赤坂離宮の方へ行ってしまっただけで養成所の面倒を見られなくなった。そこで、帝国図書館の同僚である舟木重彦に養成所を預けたんだ。その年のうちに帝国図書館が国立図書館と名称変更したので、養成所も**国立図書館附属図書館職員養成所**と名称変更した。ところが、昭和24年に国立国会図書館の設置とともに国立図書館は廃止されたので、養成所は**文部省図書館職員養成所**となった。

養成所は、2年課程だから帝国図書館附属図書館職員養成所の卒業生はいないんだ。国立図書館附属図書館職員養成所の卒業生は、1期だけ。その後はずっと文部省図書館職員養成所卒業だ。卒業期を数える時は、文部省養成所は新〇期と言ったよ。

(AM) 石山さんは、養成所の新2期の卒業とおっしゃっていましたね。

(石山) うん。入学は昭和25年だ。入学した頃は、全部が2年課程で、入学資格は高専（旧制の高等学校または専門学校）卒以上とされていたが、旧制中学校卒も入れていたから、高専卒だと国語や数学などの授業が免除されたので、空いた時間は大いにアルバイトをしたよ、アルバイトというのは、戦後復活したあちこちの図書館に行って本の整理をやるんだが、昭和24年に養成所の教員になった（図書館短大も継続し、名物教員になる）**服部金太郎**（S12年講習所16期）がその手配師で、千葉県立図書館なんか、1万冊以上を同期生10人でやったね。

(AM) その頃、同窓会はなかったのですか。

(石山) 昭和25年当時はなかった。そのうち、**鳥居美和子**さん（S9年講習所13期）が同窓会を作ろうとかましく言って、昭和28年くらいだと思うが、図書館職員養成所の**同窓会**ができた。最初の会長は**秋岡梧郎**（T11年教習所1期）、次の会長は**彌吉光長**（S3年講習所7期）だった。副会長は最初からずっと**鳥居美和子**さんがやった。

鳥居さんというのは女傑でね、長く国立教育研究所図書館で、日本の教科書の整理に尽力し、教科書の書誌も作った人だが、後輩の面倒見も良い人で、同窓会を一生懸命やった。

今日は、森さん（AM 女性）がいるので、ついでに、女性の話をもう一人すると、鳥居さんに対峙するような形で活躍した人に**小河内芳子**（こごうちよしこ）さん（S5講習所9期）がいる。この人は、女傑というタイプではないんだけど、また、同窓会とは関わりを持たなかった人だけど、児童図書館研究会を作って、図書館の児童サービスの全国的な展開に力を発揮した。

(TM) 最近まで現役で活躍していますよ。〔編集部：昨年（2010年）3月3日に亡くなられた。享年101歳。〕

(AM) ところで、同窓会に名前はなかったのですか。

(石山) 名前は「**文部省図書館職員養成所同窓会**」という名前以外はなかった。養成所は、舟木所長の病没後、**伊藤正勝**所長になった。この人は、短大になるまでずっと所長だった人だが、養成所から短大になるまでの基礎固めに尽力し、同窓会とも良い関係を作った。同窓会側は、鳥居さんがよく養成所との連絡役を果たしていて、養成所と協力して色んなことをした。たとえば、養成所は学制によって設置されたとはいえ、大学ではなかったのだから、早くから、「国立図書館大学設立」運動がおこり、何回か、同窓会としても文部省へ要望書を提出したのだが、そんな時は、私なんかは陳情に行っただけ。いつも、鳥居さんから号令がかかり、号令がかかると、**飯田英二**さん（S5年講習所9期）が文部省図書館の主任をしていたので、文部省の図書館に集合して、**彌吉**会長・**鳥居**副会長の後にぞろぞろくっついて行って、陳情したものだ。

そして、教習所・講習所・養成所を通観する「**図書館職員養成所同窓会三十年記念誌**」を出版した。

名簿も、教習所・講習所・養成所の全卒業生を収載するものを整備した。これには、役員の一人名だった**岩淵泰郎**（S29年養成所新6期）の熱意と努力に負うところ大だね。「青本」「黄本」とあってね。

### 図書館短大時代の同窓会 橋会

(石山) 昭和39年4月に図書館短期大学が設置された。入学定員は図書館科が80名。特別養成課程（通称、別科）が40名。当初は上野だったが、12月から世田谷区の旧学芸大学附属小学校の校舎に仮住まいした。ところが、昭和42年には、筑波学園都市計画の中に図書館短期大学が移転候補機関として挙げられたものだから、図書館短大の校舎は図書館情報大学がつくば市に生まれるまで、そのままずっと、学芸大附属小学校

のままになってしまった。もともと、図書館短大は、将来は4年生大学への昇格も視野に入れた構想があったからね。

(AM) 私は、S40年短大1期の別科ですが、まったくそんなことは知らずに、養成所だと思って試験を受けて、入学したら短大になってしまった。

(石山) あははは。しかし、前年の38年には、最初の国家公務員(図書館学)試験も始まっていて、教員も学生たちも志気は高かった。初代学長は、国立国会図書館の岡田温さんで、国会図書館はもちろん、養成所も育てた人で、図書館のことに明るかった。だから、養成所の卒業生を大事にした。学校は良い雰囲気だった。図書館短大設置の年に、旧養成所同窓会をそのまま引き継いで、「図書館短期大学同窓会」とした。なにしろ、養成所同窓会は、図書館短大設置運動の重要な役割を担っていたからね。

(AM) そうですか、そうすると、『橘会』という名称は、何時ごろできたのですか？

(石山) 私の記憶では、第3代学長の斉藤毅学長じゃないかと思うが、はっきりはしないね。最初は養成所の卒業生も含めた同窓会として「図書館短期大学同窓会」と言っていたのだが、斉藤学長の命名で愛称として『橘会』と呼ぶようになった、ということじゃないかな(これを「旧橘会」という)。名前の由来は、図書館短大の校章が橘の花の形をしていて、その由来は、万葉集の「橘は 実さえ花さえその葉さえ 枝に霜ふれど いや常葉の樹」という歌からきているから。斉藤学長は国文学者だからね。

(AM) 私は、長い間、「橘会」というのは、養成所の同窓会の名前かと思っていましたが、図書館短大に由来するのですね。文化の香り奥ゆかしい素敵な名前ですね。ところで、森さん(YM)は、私より若いのに、早くから旧橘会の役員をされていますね。それはどうしてですか。

(TM) 僕はS53年図短別科に入学したが、その頃、短大の卒業式に橘会から勧誘に来ていて、僕は在学中から、同窓会とのつながりが大切だと思っていたので、その勧誘の時に、自分から橘会に近づいて行った。

(石山) 旧橘会の会長は、鳥居さんの後、鈴木英二、石山洋、丸山正二郎、井上哲也と続くんだが、みな、昭和26年養成所新2期の卒業だ。

菅原峻(S28年養成所新5期)や坂本博(S48年図短別科9期)が副会長をやった。岩淵泰郎(S29年養成所新6期)は引き続き事務局長をし、小松幸子(S40年養成所最後の期)や気谷陽子(S48年図短1期)、森智彦(S54年図短別科15期)が名簿作り等に協力した。

## 図書館情報大学時代の同窓会

(石山) 昭和54年に図書館情報大学が設置され、翌55年4月に最初の入学式があった。初代学長は、図書館短大の最後の学長松田智雄が就任したが、この松田智雄という人は、図書館情報大学は、古い図書館学と新しい情報学の融合する新学問領域を切り開くという大義名分に固執し、図書館短大以前はみな大学ではないからと見下した。同窓会も、「橘会」との関係を切断し、図書館情報大学卒業生だけによる同窓会でなければダメだとの考えだった。そんな状況の中で、第2代学長町田貞の時に、図書館情報大学1期生・2期生を中心に「図書館情報大学同窓会」が生まれた。会長は、寺沢白雄「S59年図大1期・S60図大修3期」だ。松田の短大以前を見下し、橘会はダメだという考えは、その後の学長にも代々引き継がれ、第5代学長の吉田政幸も当初はそういう考えだった。こうして、図書館情報大学時代の殆どの期間は、同窓会は、「橘会」と「図書館情報大学同窓会」の二つの組織が併存することとなった。一時は、旧橘会会長の鈴木英二と大学同窓会会長の寺沢白雄が同時に千葉経済短期大学に勤務するという、奇妙な状況もあった。

(AM) それで、図書館情報大学20周年・創設80周年記念を機に、吉田学長の呼びかけで、両者が統合し、現在の橘会になるのですよね。

(TM) でも、吉田学長の呼びかけは、80周年記念事業の募金がほしいというのが本音で、何か不純な感じもしたんですが。

(石山) いやいや、もともと、統合の前から、岩淵さんと寺沢さんとがよく連絡を取り合っていて、ちょうど良い機会だった。その辺のことは森さん(AM)が詳しいんじゃないかと思うが、いずれにしても、望ましい本来の同窓会になって、大変良かった。

(AM) 同窓会が統合した時の名前は、両方の同窓会の名前を足して「図書館情報大学同窓会橘会」。この80周年の時に、大学と同窓会が協力して色んな事業をやった。特別展示会や特別講演会の他「図書館情報大学同窓会橘会八十年記念誌」や「卒業生名簿1922-2001」の刊行など。これには、石井啓豊(S50年図短別科11期)の尽力も大きい。大学の筑波大学との統合に伴い、同窓会も筑波大学の茗溪会と統合してその支部となり、名称も今の名称になった。80周年記念以降、大学と同窓会はよい協力関係になりましたね。本日は、どうも有難うございました。

(文責：森茜)

## ◇平成 23 年度の知識情報・図書館学類の状況◇

筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類長 松本 紳

### 1) 在籍者数

定員 100 名+3 年次編入 10 名

区 分	人 数	男女比
1 年	104	47 : 53
2 年	108	40 : 60
3 年	113	46 : 54
4 年	125	34 : 66
図書館情報専門学群	14	36 : 64
合計	450+14	

※学類全体の男女比 42 : 58

※昨年度、学類として最初の卒業生 105 名を輩出  
(卒業式は震災のため中止)

### 2) 主専攻別人数 (3 年次に主専攻に配属)

専 攻	教員	3 年	4 年
知識科学	13	31	29
知識情報システム	14	27	33
情報経営・図書館	18	55	63

### 3) 入試志願者数

区分	定員	H21	H22	H23
AC	5	15(3.0)	12(2.4)	17(3.4)
推薦	20	38(1.9)	49(2.5)	39(2.0)
前期	60	137(2.3)	138(2.3)	186(3.1)
後期	15	100(6.7)	92(6.1)	137(9.1)
全体	100	290(2.9)	293(2.9)	379(3.8)
3 編	10	61(6.1)	54(5.4)	62(6.2)

※カッコ内は倍率 (志願者数/定員)

### 4) 平成 22 年度進路状況

H23. 4. 1 現在

進 路	人数	H22	H21
企業	47	44.8%	41.2%
図書館・公務員	20	19.0%	17.6%
大学院進学	24	22.9%	20.0%
研究生	2	1.9%	2.4%
就活中	3	2.9%	5.5%
公務員試験等受 験予定	4	3.8%	7.8%
フリーター	5	4.8%	5.5%
合計	105	100%	100%

※H21 年度のデータは専門学群生のもの

### 5) 異動

#### ○新任 2011. 4. 1

手塚 太郎 准教授

担当科目：ソフトウェア工学

#### 退職 2011. 3. 31

石井 啓豊 教授

黒古 一夫 教授

長谷部紀元 教授

磯谷 順一 教授 (情報メディア創成学類)

#### ○情報メディア創成学類担当 2011. 4. 1

中井 央 准教授

### 6) その他

#### 国際インターンシップ

釜山大学(3名)、ハワイ大学(1名)、

トロント日本文化センター(1名)派遣

## ◇学生の活動状況◇

### 図書館の復旧に学生ボランティアが活躍

筑波大学春日エリアの図書館情報学図書館では、3月11日に発生した震度6弱の地震によって蔵書のうちの4割が書架から落下しましたが、学生ボランティアの活躍により4月はじめには書架に戻す作業を全て終わりました。そこで、ボランティアとして活躍された佐浦敬之さんに、復旧作業の経験について寄稿していただきました。



図書館2階入口近辺（2011年3月11日15時撮影）

### 図書館の復旧作業ボランティアに参加して

図書館情報メディア研究科研究生 佐浦敬之

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。つくば市も最大震度6弱という強い揺れに襲われ、図情図書館をはじめ多くの施設が被災しました。

地震発生当時、私は大学の院生室にいました。個人で契約していた緊急地震速報のアラームで地震発生を知り、そのときは「この間の余震かな。少し大きめの地震が来るのか。」と思った程度でした。しかし、ゆっくりとした小さな揺れだったものが次第に大きくなり、今まで経験したことがない身の危険を感じるほどの激しい揺れに襲われたときには、緊急地震速報で心の準備ができていたとはいえ、机の下に潜り込んで身を守ることが精一杯でした。激しい揺れに襲われた院生室では、重いコピー機がずれ動き、棚に収納されていた書類、図書、パソコンなど、ありとあらゆるものが倒れ、棚から飛び出し、割れた食器の破片が部屋中に散乱しましたが、棚そのものが倒壊しなかったことは不幸中の幸いでした。その後も襲ってくる余震の中では部屋を片付けている余裕もなく、数枚の写真を撮った後、カメラを手にして福利厚生棟前の広場に一時避難しました。地震発生時に大学内にいた人たちの多くが、福利厚生棟前の広場とメディアユニオン前に避難していたようです。そんな中、私は何を思ったのか、余震の度に避難しつつも図情図書館の中で被害状況を記録しようと写真を撮っていました。今思えば危険な行為だったと反省しています。

これ以上、大学に残っていてもどうしようもな

いと考えしばらくしてから帰宅。帰宅後、真っ先に行ったのが断水に備えて水を貯めることでした。自宅は、多少物が散らかった程度で大きな被害はありませんでした。しかし、より震源に近い実家（福島）の家族との連絡は取れず、安否確認のメールだけを送信するに留めていました（翌日までには家族の無事が確認できました）。私の地元は内陸部のため、津波の被害こそ受けなかったの、建物やライフラインの被害は大きく、実家に帰ろうにも帰れない状態がしばらく続きました。

震災の影響で卒業式・学位授与式と関連行事はすべて中止され（この3月で大学院博士前期課程修了でした）、知り合いの多くがつくばから疎開し、3月下旬まで学内への立ち入りも制限され、余震や原発事故の影響で出かけようにも出かけようがない中では気分も沈み、ほとんど家の中で閉じこもって生活する日々が続きました。そんな中、図情図書館が復旧作業のボランティアを募集していることを知り、気分転換も兼ねて参加しました。

私がボランティアとして図情図書館に入ったとき（3月30日）には、落下した図書のほとんどは元々入っていた書架の下に寄せられていました。この日の作業内容は、落下した資料を配架記号に沿って元の場所に戻し、損傷が激しい資料は修理に回すというもので、1コマあたりの作業時間は2時間。作業量が多いためできる仕事量は限られていましたが、その分野の流行廃りに思いを巡らせながら書架整頓の作業をしました。実際にボランティアとして参加できたのはこの1日だけでしたが、貴重な体験ができました。

## ◇会員便り◇

### 大学入学から 30 年を経て

図書館情報大学 1 期生 1984 年 3 月卒業  
寺沢 白雄

1980 年 4 月、図書館情報大学に入学し、1984 年 3 月に図書館情報大学の第 1 期卒業生として卒業した。開学当初は、講義棟の一部が図書室や研究室であり、入学式はもちろん卒業式も体育館で行われた。図書館や教員の研究室が入る管理棟ができたのは、2 年目を迎えた時である。ちなみに、私たちが 4 年の 1983 年に東京ディズニーランドが開園し、科学博 (EXPO85) が筑波で開催されたのは卒業した翌年の 1985 年であった。

大学を卒業して、千葉経済短期大学の実習助手に就いたときには、友人たちから「大丈夫か?」という声が多かった。助手職を経て大学事務職に変わり、千葉経済大学で学務課 (教務、学生)、就職課の職員として 20 年以上を務めた。ちょうど 6 年前 (2006 年) に実践女子大学にうつり、今は学校法人実践女子学園の総合企画室に勤務している。

私の現在の部署は、学部、学科の改革や校舎建設など学園の長期計画の実施を推進するとともに、自己点検・評価の取りまとめや学園の広報、理事の秘書業務などを行っている。実践女子大学 (東京都日野市) は、以前は東京都渋谷区の青山学院大学、国学院大学と隣接した場所にあり、1986 年に渋谷から日野に全面移転した (渋谷には、中学校高等学校が引き続き残っている)。現在大学の一部を渋谷に移転する計画が進められており、2014 年 4 月に渋谷で新たな実践女子大学としてスタートを切る。無事に渋谷にて開学ができるようにすることが、今一番の業務である。

大学を卒業後、一度も図書館の仕事を経験しないまま、大学職員として仕事をしている。しかしながら、私の周りには、司書として図書館で勤務し、現在事務職として働いている図書館短大、図書館情報大学の卒業生が何人かいるので、彼らの知恵と知識を借りながら、頑張ろうと思っている。



### 図情大・筑波大・つくば—再びつくばに暮らして

筑波大学図書館情報専門学群 2006 年 3 月卒業  
赤津愛美

高校時代、漠然と“ユーザー側から情報を学ぶ”学部を考えていた私に、父が見つめてきたのが図書館情報大学でした。就職難の時代には資格はあった方がよいと、今思えばなんとも不純な志望動機だったと思います。

入学後には、いつ頃からか「図情はなくなって筑波大に吸収されるらしい」という話を聞くようになり、3 年目の春、本当に筑波大に転籍しました。そして図情大としての最後の入学生となりました。当時は、図情大で入学した学生は図情大として卒業するという話もあったように思いますが、結局は筑波大生としての卒業となりました。

卒業後は、東京大学に採用していただき、情報基盤センター図書館電子化部門で電子ジャーナルの管理やリポジトリ構築といった、学生時代には想像もしていなかった図書館業務に 3 年携わりました。

その後、筑波大学へ異動し、雑誌受入係に配属されました。現在は、雑誌に関わる多様な業務を担当しています。雑誌の予約・発注、受入・装備、支払・督促など購入雑誌の他、全国から送られてくる寄贈雑誌の処理も行っています。専攻資料室への貸出・返却や執行した予算の振替、雑誌製本の契約なども行います。近年は急速にオンラインジャーナルの購入も増加し、雑誌業務は過渡期にあります。オンラインジャーナルに対応できるよう新たな管理方法や契約体系を考えたり、勉強の毎日です。

私にとってつくばという地は、一人暮らしをしていたアパートへ両親がよく荷物を届けてくれたり、父と二人筑波山に登って雨に降られたり、勤務地が近かった兄と食事に行ったり、家族の思い出がたくさん詰まった土地です。今再びつくばに暮らし、窓から眺める筑波山や何気ない街並みが、亡き父が導いてくれた図書館員としての初心を思い出させてくれ、私を鼓舞してくれるのです。図書館員になって 6 年、まだまだ駆け出しではありますが、諸先輩方のご指導を受けながら、これからも日々成長できるよう努めていきたいと思ひます。

## 草野正名名誉教授ご逝去

図書館短期大学名誉教授 草野正名（くさの まさな）先生（享年 98 歳）におかれましては、平成 23 年 2 月 28 日に逝去されました。

大正元（1912）年 9 月 18 日生まれ

昭和 40（1965）年 図書館短期大学着任

昭和 55（1980）年 同 停年退官 同 名誉教授

元国土館大学文学部教授

## 第 8 回総会の記録

〈日時〉平成 23 年 7 月 30 日（土）

〈会場〉茗溪会館 5 階会議室

〈出席者〉理事・監事を含め、約 20 名

〈総会議事〉

(1) 開会挨拶（森茜会長）

(2) 来賓挨拶

・植松貞夫 筑波大学図書館情報メディア研究科長  
（震災時に春日キャンパスの被害は小さかったこと、現在の節電対応、耐震補強工事、カリキュラム改定など大学の近況紹介）

・中山伸一 筑波大学情報学群長  
（学類の受験者、卒業生の進路状況、大学説明会など）

(3) 議長選出と議事録署名人の指名

森会長が議長に選出され、議事録署名人として、石山、関川、小池の 3 氏が指名された。

(4) 議事（以下の議案について、いずれも異議なく了承された。）

### 1) 平成 22 年度事業報告及び決算報告

1. 会員現勢…平成 22 年度末現在、会員 1694 名、平成 22 年度中の入会 4 名、学生会員からの移行 15 名、退会 15 名、逝去 5 名

#### 2. 事業報告

(1) 筑波大学行事への参加…卒業式は中止

(2) 第 7 回総会の開催

(3) 会則改定

(4) 会報第 10 号(平 22.9)・11 号(平 23.3)の発行

(5) 全卒業生交流会 第 2 回「大橋会」開催、公開イベント「国会図書館で働いた経験から」（講演：内海敬也氏）開催

(6) 同窓会ホームページの充実とリニューアル検

討、新ホームページ企画公募と表彰

(7) 震災を受けたホームページへの安否情報等交換の投稿欄設置

(8) 茗溪会本部行事参加

(9) 「筑波大学支援図書館情報学振興基金」活動

3. 決算報告…(次頁の通り)

## 2) 平成 23 年度事業計画案及び予算案

### 1. 事業計画

(1) 会員の一層の拡充

(2) 会報の発行

(3) 図書館情報メディア研究科創設 90 周年への対応

(4) 全卒業生交流会「大橋会」（第 3 回）の開催

(5) 公開イベントの開催

(6) 同窓生各グループ活動との連携

### 2. 予算案

## 3) 図書館情報メディア研究科創設 90 周年への対応に関する自由討議

森茜会長より、本年が前身校の文部省図書館員教習所の創設から 90 周年にあたることから、大学と共同で記念行事を開催することが報告され、その開催形式、内容、広報手段などについて、出席者の自由討議が行われた。

記念行事の内容は以下の通り：

・2011 年 10 月 3 日～10 月 10 日

記念展示「図書から情報メディアへ、図書館情報大学から図書館情報メディア研究科へ」

・2011 年 10 月 9 日

記念講演会

（橘会理事 城谷浩 [図情大 昭和 59]）



## ◇平成 22 年度決算報告書◇

一 般 会 計			
収入の部		支出の部	
前年度繰越	7,978,559	支出	1,841,382
収入	1,683,441	次年度繰越	7,820,618
合計	9,662,000	合計	9,662,000

特 別 会 計			
収入の部		支出の部	
前年度繰越	2,256,815	支出	70,428
収入	558	次年度繰越	2,186,945

## ◇会員現勢◇

### 1. 会員数

1,689 名（平成 23 年 7 月 27 日現在）

### 2. 卒業校別内訳

卒業校	人数
文図教習所	1
文図講習所	68
国図附養	1
文図養成所	83
文図養成 A	167
文図養成 B	64
文図養成 1 B	3
文図養成 2 B	11
図短付養成	21
図短特養課	126
図短図書館	319
図短文献情	79
図大図情専	11
図大図情	534

図大図情修	18
図大博前期	11
図大博後期	1
筑図	143
筑博図情修士	3
筑博図後期	3
筑博図前期	3
筑知図	19
合計	1,689

### 3. 新規加入

（以下、HP 掲載では省略）

## ◇平成 22 年度事業報告◇

#### (1) 筑波大学行事への参加

平成 23 年度の卒業式は東日本大震災のため中止となった。

#### (2) 第 7 回総会の開催

茗溪会支部「図書館情報学橋会」としての第 7 回総会を平成 22 年 7 月 17 日（土）に開催した。

#### (3) 会則改定

筑波大学の学群再編にともない、第 7 回総会において、茗溪会支部図書館情報学橋会会則の改定を行った。

#### (4) 会報第 10 号・第 11 号の発行

「図書館情報学橋会会報」第 10 号（通号 16 号）を平成 22 年 9 月、第 11 号（通号 17 号）を平成 23 年 3 月に発行した。

#### (5) 全卒業生交流会「大橋会」の開催

全卒業生が集い友好を深める場として、第 2 回の全卒業生交流会「大橋会」を、平成 22 年 10 月 10 日に筑波大学春日キャンパス（旧図書館情報大学）で開催し、多くの参加者を得た。

内容：

- ① 筑波大学春日キャンパス見学会（筑波大学図書

館情報学群の協力のもとに実施)

② 公開イベント「国会図書館で働いた経験から」(筑波大学図書館情報学群と共催)

講演：内海敬也(昭52年短大別科卒，元・国立国会図書館総務部長)

③ 卒業生懇親会

(6) 同窓会ホームページの充実とリニューアル検討

・新しい橘会ホームページ企画の公募を行い、池田光雪さんが優秀賞を受賞した。

・平成23年度からホームページのリニューアルの予定。

・ホームページアドレスは次の通り。

<http://www.tachibana-kai.com/>

(7) 東日本大震災への対応

東日本大震災及び福島原発事故を受け、橘会ホームページ上に、安否確認等関連情報交換のための投稿欄を設けた。

(8) 茗溪会本部行事参加

平成22年5月27日の茗溪会総会に代議員として森会長が出席した。

(9) 「筑波大学支援図書館情報学振興基金」の活動

筑波大学図書館情報学海外研修助成、図書館情報学実習補助への支援を行った。

以上

### 平成23年度分会費納入のお願い

平成23年度分の会費につきまして、今年度未納入の会員におかれましては、以下の郵便振替口座あてにて納入くださるようお願いいたします。

なお、通常会員の会費は3,500円です。また通常会費完納者(35回分納入済みの方)には、橘会の円滑な運営のため橘会固有の協力会費2,000円を維持費としてお願いしています。

振込先郵便振替

口座番号 00110-5-656101

加入者名 図書館情報学橘会

各銀行のインターネットバンキングをご利用の方は、インターネットで振込をすることも可能です。振込に必要な情報を以下に掲げます。その際は、「振込依頼人名」欄に会員番号の入力をお願いします。なお、インターネットによる振込手数料は利用者の負担でお願いします。

■銀行名 ゆうちょ銀行

■金融機関コード 9900

■店番 019

■預金種目 当座

■支店名 〇一九店(ゼロイチキユウ店)

■口座番号 0656101

■口座名義 トシヨカンジヨウホウガ  
クタチバナカイ

### ☆☆会報等の送付について☆☆

橘会では会報等を会員の皆様にお送りしていますが、宛先不明で戻ってくる場合が生じています。まことに勝手ながら、2年間以上宛先不明で戻ってくる場合には、現住所不明として、会報等の発送を差し控えさせていただきます。悪しからずご了承くださいとともに、どうぞ、転勤などで住所の異動がある場合は、必ずご連絡くださるようお願いいたします。

### 社団法人茗溪会支部図書館情報学橘会

〒305-8550 つくば市春日1-2 E-mail [info@tachibana-kai.com](mailto:info@tachibana-kai.com)

公式ホームページ <http://www.tachibana-kai.com/index.html>

発行：2011年9月1日